

## 令和6年度 入学式 式辞

本日、公立千歳科学技術大学の新生として、理工学部に、240名の学部学生、理工学専攻には、54名の大学院学生を迎えられたことを大変喜ばしく思っております。新生の皆様、そして、保護者並びにご関係者の皆さま、ご入学おめでとうございます。本学教職員を代表しまして、ご入学を心からお祝い申し上げます。

さらに本日は年度初めの大変お忙しい中、千歳市長 横田 隆一様、千歳市議会議長 坂野 智様。さらには、北海道議会議員、千歳市議会議員、千歳市の職員の皆様、そして市内の関係機関など、日頃ご支援頂いております、多くの皆様をご来賓としてお迎えすることができました。誠にあつく感謝申し上げます。

私から新生の皆さんに、最初にお話をしたいことは、本学の理念についてです。この理念とは、本学の基本的な考え方を意味します。

1つ目は、公立千歳科学技術大学は、理工学分野をはじめとする幅広い教育と研究を通して、高い知性とすぐれた人格を有する世に有為なる人材を育成するとともに、学術・産業の振興に貢献する。2つ目として、知の拠点として大学が有する人材と知恵を社会に提供し、地域との共生を通して、社会とともに発展する大学を目指すことです。

本学は、理工学分野の単科大学になります。理工学とは、理学と工学の融合した、幅の広い分野の学問を対象とします。理学は、あらゆる自然領域における探求であり、工学は、未来社会を作り上げる創造が、その学問の根底にあります。皆さんには、この理工学における、幅広い分野の学問を学び、優れた研究成果をあげ、その内容を、社会に還元し、より豊かな世界の実現に向けて大きく貢献してほしいという思いが、我々の理念に含まれています。また、地域との共生とは、大学における教育・研究・社会活動が、地域の発展に貢献し、皆さんも含めた我々すべてが、地域とともに成長することを意味します。

理工学の分野における学び、研究や開発というお話ですが、それらに強く関連する最近の話題で、半導体というキーワードを聞いたことがあるのではないかと思います。皆さんは、VLSIという単語をご存じでしょうか。今では話題にもならないような単語ですが、これは、1980年代において、日本が、世界に誇る

先端技術の一つを表しています。小さいシリコンチップの中に、数百万、時には、数千万のトランジスタを作成して、演算回路や、記憶装置を実現する技術で、超大規模集積回路をVLSIと呼んでいました。その後、国際競争が激化したということが大きな要因ですが、国内の産業構造も徐々に変化し、現在では、大規模集積回路を世界規模で研究・開発しているのは、台湾、韓国、アメリカ、中国などで、日本では、かなり縮小してしまいました。一方で、2年前から始まった、世界的な半導体不足が、日本でも大きな影響となり、例えば、その影響で、自動車の製造が制限される事態となりました。

このような世界的な問題を背景に、日本では、昨年より国家プロジェクトとして、大きな半導体産業の創成を試みています。その一つとして、本学の隣に、大規模な半導体製造企業ができつつあります。世界に向けた大きな企業であり、今後、いろいろな領域での、数多くの人材が、期待されることとなります。

シリコン半導体は、スマートフォン、家電、自動車、医療機器、ゲーム機器、コンピュータなどなど、あらゆる物に利用されている基本的なハードウェアです。従って、今後必要となる人材も、あらゆる産業に広がるのは必至です。

何を、ここでお話したいかという、皆さんには、明るい未来が待っているということと、大きなチャンスが、すぐそばの周りにたくさん生まれてくるということです。ただ、黙って見ていると、そのチャンスというものは、通り過ぎるだけですので、確実に自らの手で掴まえる必要があります。大学での勉強や生活において、自分がどのようなことをやりたいか、できるのか、将来はどのような仕事をしたいのかを、具体的に考え、自分に一番適したチャンスをつかんでほしいと願います。

大学院に進学する皆さんには、応用化学生物学、電子光工学、情報システム工学の各専門領域において、自分の研究活動が始まります。今、我々の国が推進している、戦略的目標・研究開発目標に、持続可能な社会を支える光と情報・材料等の融合技術フロンティア開拓があります。対象領域は3つあり、材料工学、光科学、情報科学であり、そのすべての領域を、本学は研究開発の対象としています。すなわち、本学の専門領域は、現在、大変重要視されており、とても大きな期待がかけられているものと感じます。入学される皆さんには、自信をもって、自らの研究に取り組んでいただきたいと思います。そこから、大きな成果が生み出されることを期待しています。また、研究を正しく速やかに実施することは、大変重要ですが、それと同様に、自分の研究成果を、世界に向けて発信すること

も重要です。グローバルな視点で、研究成果を常に情報発信していただきたいと希望します。

多くを学び、多くの友が得られるよう、そして大きな夢に向かって、のびのびと実り多い学生生活を送られることを祈っております。

本日は本当におめでとうございます。

令和6年4月2日  
公立千歳科学技術大学長  
宮永喜一